まちの史跡めぐり 197

町文化財専門委員　石瀧 豊美

昭和11年の『糟屋郡教育銘鑑』と大正14年の『学校経営の実際』(4)

『糟屋郡教育銘鑑』は糟屋郡内の各学校の沿革を掲載した後、各1頁を割り当てて教職員一人一人の履歴などを書き上げています。須恵町の出身か、または須恵町の小学校に在籍する教員を拾い上げながら紹介したいと思います。年齢は昭和11年(1936年)時点での数え年を書き添えました。なお訓導は正規の教員のことで現在の教諭に当たります。師範学校は小学校教員を養成する学校です。

勝野 猪　慶応2年(1866年)生。71歳。須恵村大字上須恵出身、志免村在住。「猪(ちょ)」は「水たまり」という意味ですが、名前の読みは不明。明治20年(1887年)に福岡県小学校訓導の資格で、尾仲尋常小学校訓導となり、勢門尋常小学校、久原尋常小学校を経て31年(1898年)小山田尋常小学校訓導兼校長(33歳)、次いで宇美尋常小学校、志免尋常小学校の訓導から、大正7年(1918年)萩尾尋常小学校訓導兼校長。同12年(1923年)萩尾尋常小学校は篠栗小学校に合併し、それを機に依願退職しています。昭和11年(1936年)当時は神職を務めています。

小林 市助　明治19年(1886年)生。51歳。和白村出身。須恵尋常高等小学校校長。明治39年(1906年)福岡師範学校卒業。福岡師範学校は現在の福岡教育大学の前身です。福岡県小学校正教員免許状を受けています。卒業と同時に糸島郡周船寺高等小学校訓導、その後、和白尋常高等小学校訓導、大正8年(1919年)志賀島尋常高等小学校訓導兼校長(34歳)、香椎尋常高等小学校訓導兼校長、篠栗尋常高等小学校訓導兼校長、昭和5年4月須恵尋常小学校訓導兼校長に任命されました。昭和11年(1936年)多年教育功労者として福岡県知事の表彰を受けています。

山辺 勘助　明治35年(1902年)生。35歳。【計算が合わないので、正しくは明治25年(1892年)生、45歳、の間違いではないか、と思います】山田村出身。大正2年(1913年)福岡師範学校卒業。福岡県小学本科正教員免許状を受けています。立花尋常小学校訓導、立花村立実業補習学校訓導兼任。山田尋常高等小学校訓導、多々良尋常高等小学校訓導を経て昭和7年(1932年)須恵尋常高等小学校訓導。同年須恵公民学校助教諭兼任。公民学校は義務教育終了後に、働きながら中等教育を学ぶための学校。時代とともに制度が移り変わり、当初の須恵実業補習学校が須恵公民学校となり、その後、須恵青年学校へと変化します。

三島 丈夫　明治23年(1890年)生。47歳。箱崎町出身。大正2年(1913年)福岡師範学校卒業。右の山辺氏と同級生ということになります。年齢は2歳ずれがありますが、現在とは違い、どの学校も同学年同年齢というわけではありませんでした。福岡県小学校正教員免許状を受けています。大牟田高等小学校訓導、嘉穂郡伊岐須尋常小学校訓導、宇美尋常高等小学校訓導、仲原尋常高等小学校訓導、多々良尋常高等小学校訓導、昭和5年(1930年)須恵尋常高等小学校訓導。

小山田 遊谷　安政元年(1854年)生。83歳。名前にミスがあるので修正しています。須恵村大字佐谷出身。明治16年(1883年)30歳で佐谷小学簡易科の教師となり、明治22年(1889年)同校が上須恵小学簡易科と合併して須恵尋常高等小学校が発足すると、同校訓導となります。明治37年(1904年)宇美尋常小学校訓導に転じ、同39年(1906年)53歳で依願退職。岳城山頂近くの巨大な岩に彫られた「竹城々址碑」は上須恵区民の手で昭和5年(1930年)に建てられました。文は元教員勝野藤太、書は郷土史家小山田遊谷の手になります。勝野藤太氏が先に述べた勝野瀦と同一人物なのかどうかは不明。『広報すえまち』363号(1997年10月)掲載の「まちの史跡めぐり　第8回　高鳥居城は大内義隆の城―400年前の落城を伝える『竹城々址碑』(竹城山頂付近)」で取り上げたことがあります。

梶川 猛　明治元年(1868年)生。69歳。須恵村大字上須恵出身。明治17年(1884年)第15番学区五等補助生を申し付けられます(17歳)。19年(1886年)須恵小学簡易科訓導、22年(1889年)立花尋常小学校に転勤、23年(1890年)須恵尋常小学校訓導兼校長(23歳)。45年(1912年)障子岳尋常小学校訓導兼校長、大正6年(1917年)須恵尋常高等小学校に転勤、15年(1926年)退職(59歳)。在職中、四村(須恵村など4か村の意)教育会から銀杯を、糟屋郡教育支会から置時計を、糟屋郡長から硯箱を授与され、大正9年(1920年)には教育勅語の30年記念で銀杯御下賜(天皇陛下から授与という意味)、明治43年(1910年)には須恵村卒業生が千人に達した記念に「梶川猛先生頌徳碑」が建てられました。梶川猛氏はこの時数え年43歳(満41歳)、校長在職は20年に達しています。私は以前、『広報すえまち』367号(1998年2月)に「まちの史跡めぐり　第12回　41歳で校長在職20年―梶川猛先生の記念碑(上須恵)」を書いています。

木戸 半也　明治2年(1869年)生。68歳。須恵村大字須恵出身。明治20年(1887年)から26年(1893年)まで立花村原上小学校、仲原尋常小学校、障子岳尋常小学校、28年(1895年)から35年(1902年)まで大川第二尋常小学校、勢門尋常小学校、鞍手郡脇田尋常小学校、志賀島尋常小学校に勤務。35年から須恵宝満宮、旅石八幡宮、佐谷熊野神社、植木若宮八幡宮、天満宮、上須恵須賀神社の社掌を務め、大正13年(1924年)から宇美町県社宇美神社社掌。社掌は神職のこと。

小山田 猛　明治16年(1883年)生。54歳。須恵村大字上須恵出身。明治37年(1904年)勢門尋常小学校訓導、39年(1906年)須恵尋常小学校訓導、43年(1910年)障子岳尋常小学校校長。45年(1912年)宇美尋常高等小学校訓導、大正9年(1920年)から昭和3年(1928年)まで宇美第三尋常小学校訓導、大正12年(1923年)から15年(1926年)まで上須恵信用組合常務理事を兼務、昭和3年(1928年)宇美尋常高等小学校訓導、6年(1931年)引退。同年から再び上須恵信用組合常務理事。

百田 三郎　明治31年(1898年)生。39歳。須恵村大字佐谷出身。大正5年(1916年……原文の「昭和5年」は大正5年の間違いと判断しました)小倉師範学校専攻科卒業。福岡県小学校本科正教員免許状取得。12年(1923年)志免尋常高等小学校訓導、13年(1924年)宇美尋常高等小学校訓導、14年(1925年)志免尋常高等小学校訓導、昭和2年(1927年)須恵尋常高等小学校訓導、5年(1930年)福岡市堅粕尋常小学校訓導、同年福岡市吉塚尋常小学校訓導、9年(1934年)仲原尋常高等小学校訓導。

木戸 元節　明治31年(1898年)生。39歳。須恵村大字須恵出身。大正8年(1919年)小倉師範学校(現在の福岡教育大学の前身のひとつ)卒業。福岡県小学校本科正教員免許状取得。志免尋常高等小学校訓導、10年(1921年)須恵尋常高等小学校訓導。昭和3年(1928年)広島高等師範学校(現在の広島大学)教育科卒業。中等学校教員免許状取得。4年(1929年)宇美尋常高等小学校訓導。5年(1930年)志免尋常高等小学校訓導、6年(1931年)須恵尋常高等小学校訓導、8年(1933年)多々良尋常高等小学校訓導。

合屋 繁　明治23年(1890年)生。47歳。須恵村大字佐谷出身。明治44年(1911年)福岡師範学校本科第一部卒業。須恵尋常高等小学校訓導。45年(1912年)宇美尋常高等小学校訓導。大正3年(1914年……原文の「昭和3年」は大正3年の間違いと判断しました)文部省検定試験に合格し教育科中等教員免許状を取得。7年(1918年)同、法制及び経済科免許状を取得。8年(1933年)福岡商業学校教諭(現在の福岡市立福翔高校。初等教育から中等教育に転じたということになります)、昭和5年(1930年)依願退職。同年福岡市尾形(屋形原の間違いではないかと思われます)尋常小学校訓導兼校長(再び初等教育に戻りました)、8年(1933年)福岡市松原尋常小学校訓導兼校長。

なお、ウィキペディア「師範学校」に、「師範学校は、卒業後教職に就くことを前提に授業料がかからないのみならず生活も保障されたので、優秀でも貧しい家の子弟への救済策の役割も果たしていた。」とあります。家計に負担をかけずに中等教育(師範学校)、高等教育(高等師範学校)を受けることができましたが、たとえば設立時の「高等師範学校」(後の東京高等師範学校で、現在の筑波大学)の場合、卒業後は10年間教職に就くことと、当初の3年間は文部省の指定するところで勤務に就くことという条件がありました。「女子高等師範学校」は現在のお茶の水女子大学になります。福岡県には福岡師範学校、小倉師範学校などがあって、いずれも戦後の福岡学芸大学を経て、現在の福岡教育大学になりました。

須恵尋常高等小学校と須恵実業補修学校の看板のある校門にて

須恵尋常高等小学校と須恵公民学校の看板のある校門にて

(写真は『須恵町誌』より)